

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	有限会社 エスエイサービス
事業所名	グループホーム 恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330-1
自己評価作成日	平成21年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の立場、家族からの立場を考え、双方が納得の行く答えが出るように私たちはその橋渡しをさせて頂いております。出来る事と出来ない事はありますが、問題に直面したときには医師やご家族との話し合いを密に繰り返し、必ず何らかの方向性を見出せるように配慮しております。職員自体はまだまだ成熟していませんが、経験やプライドで行う介護ではなく、基本である目で見えて触れての気付きを優先する背伸びの無い介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の住宅街に位置し、自然が多く四季折々の風景を楽しむことができる。ホームの動線がやや多く、避難経路の確保と訓練の重要性を認識したうえで取り組んでいる。自己評価は全職員で丁寧にチェックし、話し合ってみており、職員の意識の確認にもなっている。職員の異動は比較的少なく、利用者とともに落ち着いた生活を送っている。職員は利用者の生活リズムを大切に、身体だけでなく心の情報にもより注目している。会議等で家族からの意見も出されており、ホームの運営に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 恵須栄

(ユニット名) 恵

記入者(管理者)
氏名 芝 博文

評価完了日 平成21年12月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員が常に見えるところに貼っているが、意識して取り組んでいない部分もある。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を追加している。各ユニットでより具体的な目標を掲げ、目にふれる所に掲示して共有して実践につなげている。理念及び目標は、新規採用者への意識付けにも重要と考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 大きな行事での交流はあるが、日常的にはまだまだ交流できてはいないと感じる。地域行事にも参加する等もっと改善の余地があると思う。</p> <p>(外部評価) 近所の方とは散歩等で会えば気軽に挨拶や会話を交わすことが日常的になっている。自治会には加入していないが、地域の情報は地域在住の職員や運営推進会議のメンバーから得ている。ホームのある地区に住所がある利用者には敬老会の案内があり、参加している。また、ホームでの観月会に地域の方を招待しているが、参加はまだ少ない。</p>	今年度はインフルエンザ等の影響で外出や交流を控えたこともあり、地域行事への参加やボランティアの訪問等が少なかった。今後は機会を捉えて地域に働きかけ、地域の方がホームを気軽に訪問してくれるような取り組みをすすめ、さらに交流を深めていけるような具体的な検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 外部からの地域ボランティア等の訪問により、接点を持つようとしているが、具体的な支援方法や認知症への理解については、広くは伝わっていないと感じる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を開いており、サービス向上に向けて出きる範囲で、意見を反映させている。	
			(外部評価) 2か月に1回定期的に開催し、ホームの状況を報告したり、時々課題について意見交換している。回を重ねる毎に参加者からの意見や家族からの質問等が出されてきており、それらの意見等は職員間で共有してサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 現場においては、市の介護相談員との情報交換を行い、ホームとしては、疑問点や方向性について、西条市高齢介護課と、TEL、メール等で密にやりとりを行っている。	
			(外部評価) 市担当者とは電話やメールで連絡し合っている。時には市職員がホームを訪れ、利用者や職員と話し合いをしている。現在、市担当者よりホームが緊急避難場所となることについての打診がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 車椅子からのズリ落ちや離園の可能性のある方に対しても基本は職員の目で見守りを行っている。指定基準における禁止の対象となる行為について、全部は頭で覚えていないが、拘束になるのではないかという場面では常に全員で話し合い、慎重に審議を重ね取り組んでいる。	
			(外部評価) 気になる言葉かけや対応等がみられた際には勉強会で検討し、職員間の意識統一を図っている。また、繰り返し学習しながら拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉や身体両面においての虐待については、常に頭に入れて接している。又、職員自身がストレスを溜めてそれが入居者へ行かないように自制心をもってケアに当たっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に参加したことはあるが、現場においてはまいち分からない部分があるので、その局面に当たった場合には、現場レベルではなく、施設全体でどうするか方向性を決めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者と現場職員及び、契約締結者が密に話し合いを重ね、お互いの話しを摺り合わせ、双方が納得するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営会や入居者個々のご家族との話し合いを、繰り返しながら、反映させる努力を行っている。	
			(外部評価) 来訪時や電話等で家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。また、運営推進会議にも家族の参加があり、意見や質問が出されている。家族だけで話せる会を持ちたいとの意見があり、開催できるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回職員会を行い意見や提案を聞いてくれる機会を設けてくれている。良い提案ならなるべく反映してくれるよう管理者は努力してくれていると思う。 (外部評価) 個々にリーダーや管理者に相談しているが、定期的な面談等の機会は設けられていない。親睦会等で交流を深めている。代表者の交代から日が浅く、個々の職員との意見交換の機会はまだ持っていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者と直接話し合う機会はあまりないが、管理者を通して環境や、条件についての話し合いは少しずつ進められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には積極的に参加したいと思っているが、近頃は現場職員の確保優先で、受講件数は減少している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者の意見を聞いた上で、同業者との交流会等には参加させている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人自身が要望を出す場面は少ないですが、ご家族も含めた話し合いを進めていく上で、本人の表情や仕草を観察し、安心できるような配慮を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていることの対象が、本人にとってはどうなのか、現場職員も話し合いに含め、ホーム側も背伸びをせず出来る事、出来ない事を冷静に見極め、しがらみのない関係作りに勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ホーム側で出来る事、出来ない事の説明をしっかりと行い、ケアマネージャーも含めて、現在本当に必要なサービスは何か密に話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本的に尊厳を持って取り組むことが重要だが、意識はしていても、出来ていないところも多々あるので、今一度振り返る必要がある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族には職員が出来る事の限界を説明し、家族あつての介護という事の理解に努め、職員も技術を磨く努力をし、双方が入居者の為に機能できるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人間がどういったところに居るのか、どういった関係でどういう風に過ごされてきたのか、まだその部分の把握は出来ていないと感じる。 (外部評価) 時に家族だけでなく友人・知人等馴染みの方の訪問や電話がある。日頃の生活の中で集めた情報を職員間で共有できるよう努めている。支援に繋がる情報の具体的な蓄積・応用方法は今後検討していく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 励ましあうとき、喧嘩する時、様々な関係がユニットの空間の中で起きているが、人間なので好き嫌いは当然あるので、無理に支えあえる支援には努めていない。しかし、孤立はさせないように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了前でも、今後の支援の内容を密に話し合い、次のサービスへのスムーズな移行の手伝いや、相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケア検討会を開き、皆で密に話し合いを行っている。職員視点での流れになりがちなので、その部分に関しては必ず本人の気持ちはどうなのかを振り返るようにしている。 (外部評価) 利用者ごとに担当職員がおり、心身の状態の変化に注目して、定期的なケア検討会で課題等を検討している。職員は、日々の生活の中で利用者の気持ちに立って支援することを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族より情報を集め、馴染みの暮らし方、本人らしさについての把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のマンネリ化については、常に現状が当たり前にならないように、振り返りを行っている。入居者の残存能力や心身状況を最新に整理する意識をこの先も持ち続けたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族、職員間で話し合いを繰り返し、現状に即した計画を作成するように努めている。 (外部評価) 本人及び家族の意見や思い、評価等を基に担当者が素案を作成し、全職員で月2回のケース検討会で検討している。通常は6か月ごとに見直しているが、必要時には適宜見直している。ケア記録・計画・評価・本人を含む関係者の要望等、個々の記録は丁寧にされているが、一貫して把握することが難しい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間での情報の共有が、やはり甘くなる事があるので、しっかりと申し送り事項に漏れないように、連携力を高めての実践への取り組みが課題と感じている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズに対して、現場レベルで対応出来る事はいつでも追及して行っていく努力をしていくべきだが、経営面や法的な問題も含め、広い視野で考えてゆきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人がどう思っているかは解かりかねるが、状況に応じた資源を選択し、支援ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 納得が行き、更に本人の病状に即した医療機関を選択 することはとても重要だと感じている。しかし地域医 療の深刻さから、やむなく限定される部分も多くなっ てきていると感じている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関やかかりつけ医の往診を受けることがで き、ホームの看護師が中心となって医療機関との連携 を図っている。受診の際はできるだけ職員が同行して いる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護、看護のお互いの意見を出し合い、最終的に本人 の状態に即して支援している。コンビニ的な受診は極 力避けている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 積極的に入院先の病院へ情報収集や本人の状態把握に 出向いている。キーパーソンが遠方であれば、洗濯物 を引き取りにいたり、やむを得ず家族代わりになる こともあるが、できる範囲での支援を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族への話し合いや方針の説明は出来ている。掛かり 付け医にも相談し、どういった方向性を本人に示して いくか、取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) ホームで急変して亡くなった方がおられるが、基本的 に看取りには対応していないことを利用開始時や早い 段階から本人及び家族に説明して話し合っている。食 事を経口摂取できなくなった場合には、医師や家族等 と相談し、次の支援につなげるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実践になると、やはり救命行為への初動が遅い。だが年々冷静に対処できるようになってはきているが、まだまだ満足できる状態ではない。今後も定期的な訓練は必要だと感じる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は行っているが、いざと言うときには困難な状況が想定されます。地域との協力体制も遅れを感じているので、基盤整備を進めてゆきたい。 (外部評価) 夜間想定も含めた訓練を年2回実施している。建物の避難経路がかなり複雑であり、夜間は3ユニットに2名の職員体制となるため、より効率的な対応をしていく必要があると感じている。	運営推進会議等を通じて地域への協力を依頼し、災害時の協力体制の整備について検討することを期待したい。また、ホームの訓練に地域の方にも参加してもらうなど、実際的な協力を得ていく取り組みについても期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに配慮し、重要な話は居室等の個室で行うようにしています。 (外部評価) 職員は、言葉かけや対応には十分注意し、話の内容によって適切な場所を考慮するなど、利用者一人ひとりを尊重した接し方を心がけている。来訪者の把握は、個人情報にも配慮してノート式ではなくカード形式としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分で決定できるように、入居者の状態に応じて、声掛けの形式をオープンにしたり、クローズにしたり工夫はしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人のペースは尊重したいが、やはり職員時間での行動が優先になりがちになっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容院等の希望があれば、出向いたり、訪問してカットしていただいたり状況に応じて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出きる部分は参加して頂き、食事中はコミュニケーションを取りながら、楽しく行っている。 (外部評価) 基本的に業者から配達してもらい、主食のみ各ユニットで用意しているが、週1回はホームで調理している。利用者のタイムリーな希望等への対応は難しく、また業者がメニューや好みの要望を聞き取る機会や、改善に繋げるシステムが未整備である。嚥下困難の利用者はいないため、時間はかかるが柔らかいものやスプーン等で対応できている。利用者の役割の参加は少ない。	利用者と一緒で一連の作業をし、同じものを食べて食事がより楽しいものとなるような工夫を期待したい。また、時々のかみ細かな対応が可能な限りできるよう、メニューや細かい注文は具体的に業者（特に栄養士）に伝えられるようなシステム構築を期待したい。また、検食等の評価も望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスについてはあまり考えられていないように思うが、水分チェックに関してはチェック表を作成し、チェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄のパターンを把握し、定期的な声掛け誘導し自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を使用し、職員全員が状態把握ができるよう努めている。	
			(外部評価) しぐさや表情等からタイミングを見計らってさりげなく支援している。排泄パターンを把握して支援することで、トイレでの排泄が可能となった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 投薬に頼らない便秘予防を根底に意識し、あくまで自然排便が促されるように、努力している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯を決めての入浴状況になっている。	
			(外部評価) 2日に1回は入浴できるよう支援している。午後の時間を基本として計画し、健康状態やその日の希望等によって順番を決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 認知症への理解を示し、夜間眠ることが出来ないときも度々あるので、昼寝を促したり、状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師任せの感が強い、薬に関する説明文くらいはきちんと目を通し、いかなる職種であっても、勉強する気持ちを持ってゆきたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族からの情報や、本人の希望を聞きながら楽しみを持って頂き、気分転換への支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の体調と相談しながら、歩ける距離や身体に掛かる負担に配慮して、気分転換に出かける。	
			(外部評価) できるだけ戸外に出かけられるように支援している。天気の良い日には近くを散歩したり、バスで出かけるなどして楽しんでいる。時に、家族の協力を得て一緒に出かけることもある。車いすの利用者も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や本人の管理能力に応じて所持されている方もいれば、事務所等で保管させて頂いている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は、字がかきにくいと言われる利用者が多いので、電話等でご家族に声を届けて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や、ホールの飾り、窓からの景色を見て頂きながら、現在の生活観を感じて頂いている。</p> <p>(外部評価) 門扉から玄関に至る道筋には季節の花が植えられている。居間はソファ・テレビ・イス・テーブルなどが配置され、利用者は個々に居場所をみつけてくつろいでいる。廊下やトイレ・浴室等は手すりを設置して安全を確保している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 仲良い人と、ソファーに座ったり、将棋をしたり、中々共同生活において思い通りには行かない部分のほうが多いが、工夫する努力はしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家庭にて使い慣れた物を持ち込んで頂き、工夫を行っている。</p> <p>(外部評価) トイレ付きの居室もある。利用開始時に家族の協力を得て、使い慣れた物や愛着のある物等を持参してもらっている。仏壇を持ってきている方は、毎日水を換えている。テレビ・ダンス・イスとテーブル・人形・写真や絵・花や鉢植え等を個々に配置し、個性が出ている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりの付け位置や、ホールや炊事場の設置関係では決して機能的ではないと感じる。スタッフの技量を上げることも大事だが、ハード面での不適切さも多少は関係していると思われる。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	有限会社 エスエイサービス
事業所名	グループホーム 恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330-1
自己評価作成日	平成 21年 12月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の立場、家族からの立場を考え、双方が納得の行く答えが出るように私たちはその橋渡しをさせて頂いております。出来る事と出来ない事はありますが、問題に直面したときには医師やご家族との話し合いを密に繰り返し、必ず何らかの方向性を見出せるように配慮しております。職員自体はまだまだ成熟しておりませんが、経験やプライドで行う介護ではなく、基本である目で見えて触れての気付きを優先する背伸びの無い介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の住宅街に位置し、自然が多く四季折々の風景を楽しむことができる。ホームの動線がやや多く、避難経路の確保と訓練の重要性を認識したうえで取り組んでいる。自己評価は全職員で丁寧にチェックし、話し合ってみており、職員の意識の確認にもなっている。職員の異動は比較的少なく、利用者とともに落ち着いた生活を送っている。職員は利用者の生活リズムを大切に、身体だけでなく心の情報にもより注目している。会議等で家族からの意見も出されており、ホームの運営に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 恵須栄

(ユニット名) 寿

記入者(管理者)
氏名 芝 博文

評価完了日 21 年 12月 23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所理念は出来ており、頭に入っているが、日々の仕事の中ではあまり意識できていない。経営者、管理者、職員の方向性のすりあわせが出来ていないように思える。今後の改善点です。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を追加している。各ユニットでより具体的な目標を掲げ、目にふれる所に掲示して共有して実践につなげている。理念及び目標は、新規採用者への意識付けにも重要と考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 諸事情はあると思うが、交流自体が年々盛り上がっているとはあまり実感が無い。まだまだ改善の余地がある。</p> <p>(外部評価) 近所の方とは散歩等で会えば気軽に挨拶や会話を交わすことが日常的になっている。自治会には加入していないが、地域の情報は地域在住の職員や運営推進会議のメンバーから得ている。ホームのある地区に住所がある利用者には敬老会の案内があり、参加している。また、ホームでの観月会に地域の方を招待しているが、参加はまだ少ない。</p>	今年度はインフルエンザ等の影響で外出や交流を控えたこともあり、地域行事への参加やボランティアの訪問等が少なかった。今後は機会を捉えて地域に働きかけ、地域の方がホームを気軽に訪問してくれるような取り組みをすすめ、さらに交流を深めていけるような具体的な検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 日常の支援をしつつ、地域の高齢者にとっての役立つことを考える必要がある。まだまだ地域の認知症への理解は薄いと感じる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 何となく、議題を立てての話し合いが多く、煮詰まった話題が少ないと感じる。	
			(外部評価) 2か月に1回定期的に開催し、ホームの状況を報告したり、時々課題について意見交換している。回を重ねる毎に参加者からの意見や家族からの質問等が出されてきており、それらの意見等は職員間で共有してサービスの向上に活かしている。	地域の情報をさらに把握したり、ホームを理解してもらうためにも、会議のメンバー構成について再検討を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 現場においては、市の介護相談員との情報交換を行い、ホームとしては疑問点や方向性について、西条市とTELやメール等で密にやりとりをしている。	
			(外部評価) 市担当者とは電話やメールで連絡し合っている。時には市職員がホームを訪れ、利用者や職員と話し合いをしている。現在、市担当者よりホームが緊急避難場所となることについての打診がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体面への拘束に関しては理解できているが、スピーチロックは無意識に出てしまうことがある。常に声掛けの内容に関してはより高い意識をしてケアに望まないといけないと感じている。	
			(外部評価) 気になる言葉かけや対応等がみられた際には勉強会で検討し、職員間の意識統一を図っている。また、繰り返し学習しながら拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 自分が行っていることが、利用者からみてどうなのか、常に鏡の意識を持って取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者と家族間にも関係してくる問題なので、簡単ではないと感じる。権利擁護を行使するに当たっては、慎重な話し合いを要するだろうが、本当に必要になった場合に備えての勉強はまだまだ不十分である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、現場職員及び、契約締結者が密に話し合いを重ね、お互いの話を摺り合わせ、双方が納得できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営会やご家族個々の話し合いを繰り返し、反映させる努力を行っている。 (外部評価) 来訪時や電話等で家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。また、運営推進会議にも家族の参加があり、意見や質問が出されている。家族だけで話せる会を持ちたいとの意見があり、開催できるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案を聞いてくれるときには、もう少し一貫性を持ってきて貰いたい時がある。 (外部評価) 個々にリーダーや管理者に相談しているが、定期的な面談等の機会は設けられていない。親睦会等で交流を深めている。代表者の交代から日が浅く、個々の職員との意見交換の機会はまだ持っていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 環境や条件は18年法改正後より悪くなってきていると感じる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 様々な施設形態を体験できるようなシステムが重要だと感じる。自分のケアのやり方を見つめなおす機会がもっと必要だと感じる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設の行事を通して等の交流の機会はあるが、行事以外でもテーマを決めての話し合いの機会等を設け、様々な形の交流を実現させていければ良いと感じる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 密にご家族や、本人との情報交換を行い、円滑な日常が送れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の思いに関しても、ケアプランの中にあげて、含めての支援を心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人にとって、本当にグループホームでの生活が合っているのか、他のサービスでより適切な事があるのではないかと話し合い決めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) どうしても職員側が上から目線になりがちなので、尊敬の念をもって今一度振り返る必要がある。常に出来ているとは言えない。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の気持ちと本人の気持ちがすれ違っている部分があるが、職員が手を出しすぎても本人の為にならないことも理解し、第三者としての配慮の仕方をまだまだ勉強しておく必要を感じている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) バックグラウンドに対して、本人、ご家族、ケアマネージャー等から初期にきいているが、関係を築けてからのもう一歩本人を知る努力をして行きたい。 (外部評価) 時に家族だけでなく友人・知人等馴染みの方の訪問や電話がある。日頃の生活の中で集めた情報を職員間で共有できるよう努めている。支援に繋がる情報の具体的な蓄積・応用方法は今後検討していく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個性が強い方もいらっしゃり、口論にもなるが、様子観察をすることも大事だと感じている。その後のフォローについては、じっくり話を双方に聞き対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次のサービスへ移行する場合にも、本人のリロケーションダメージへの配慮や、必要機関への情報提供等で支援できるように努力している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の状態を踏まえ、ご家族や職員、主治医等と連携をとり、本人にとっての利益が少しでも多きな選択が出来るように検討している。	
			(外部評価) 利用者ごとに担当職員がおり、心身の状態の変化に注目して、定期的なケア検討会で課題等を検討している。職員は、日々の生活の中で利用者の気持ちに立って支援することを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 現状に満足せず、視点を色々変更しながら、これまでのサービスの経過が本当に本人にとってプラスだったか、当ホームではどのような関わり方をするのか検討を繰り返している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 独断で決めてしまうことが、一番怖いことだと思うのでなるべく多数の意見を聞き、現状での出来る事、出来ない事の把握をし、方向性について慎重に話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) プラン検討会を月2回開催し、9人それぞれの日々の様子や問題を話し合い、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 本人及び家族の意見や思い、評価等を基に担当者が素案を作成し、全職員で月2回のケース検討会で検討している。通常は6か月ごとに見直しているが、必要時には適宜見直している。ケア記録・計画・評価・本人を含む関係者の要望等、個々の記録は丁寧にされているが、一貫して把握することが難しい。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 記録への記入は行っているが、内容に乏しい部分がある。情報の共有についても、スムーズに行えていない部分があるので、きちんと共有し見直してゆきたい。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 状況に応じて、出来る事と出来ない事をご家族、本人を含めて話し合い、なるべく実現できるように努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) その都度の話し合いになりますが、状況に応じて活用出来る資源は何かを、皆で話し合い、活用するように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご家族、本人の希望を聞いての掛かり付け医で診てもらっている。病気の状況に応じて、医療機関を選択するときには緊急時を除いて、ご家族と相談させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関やかかりつけ医の往診を受けることができ、ホームの看護師が中心となって医療機関との連携を図っている。受診の際はできるだけ職員が同行している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 連絡経路を明確にし、スムーズに受診できるように配慮している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 仕事帰りや、業務中でも時間を見つけ、入院中でも入居者の一員として意識して取り組み、病院へ出向き情報交換や本人の状態把握に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日々の情報交換をしっかりと行い、本人の現状がどうなのかをご家族に伝えている。先の事も見据えながら、様々なケースを想定した話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) ホームで急変して亡くなった方がおられるが、基本的に看取りには対応していないことを利用開始時や早い段階から本人及び家族に説明して話し合っている。食事を経口摂取できなくなった場合には、医師や家族等と相談し、次の支援につなげるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の協力を得ての応急処置の訓練を行っているが、年に1回程なので、機会を増やし身体で身に付ける努力をしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルは作成しているが、地域とのつながりや応援体制に不安がある。災害時の避難場所は明確になっているが、その避難場所へたどり着く為の流れや技術も再確認する必要がある。 (外部評価) 夜間想定も含めた訓練を年2回実施している。建物の避難経路がかなり複雑であり、夜間は3ユニットに2名の職員体制となるため、より効率的な対応をしていく必要があると感じている。	運営推進会議等を通じて地域への協力を依頼し、災害時の協力体制の整備について検討することを期待したい。また、ホームの訓練に地域の方にも参加してもらうなど、実際的な協力を得ていく取り組みについても期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人格尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないように配慮しています。 (外部評価) 職員は、言葉かけや対応には十分注意し、話の内容によって適切な場所を考慮するなど、利用者一人ひとりを尊重した接し方を心がけている。来訪者の把握は、個人情報にも配慮してノート式ではなくカード形式としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情での反応や仕草を慎重に読みとり、意思表示が困難な入居者には特に注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員のペースになっているときは多い。個々のペースに常に合わせるようになって行きたいが、まだまだ未熟だと感じている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしさを考えることはかなり難しいが、整髪、服装等、場面場面にあったコーディネートを選択に心掛けているが、職員が無理強いしないようにも配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ADL等を考え、配膳や下膳、台拭き等の軽作業を共に行うようにしている。 (外部評価) 基本的に業者から配達してもらい、主食のみ各ユニットで用意しているが、週1回はホームで調理している。利用者のタイムリーな希望等への対応は難しく、また業者がメニューや好みの要望を聞き取る機会や、改善に繋げるシステムが未整備である。嚥下困難の利用者はいないため、時間はかかるが柔らかいものやスプーン等で対応できている。利用者の役割の参加は少ない。	利用者と一緒で一連の作業をし、同じものを食べて食事がより楽しいものとなるような工夫を期待したい。また、時々きめ細かな対応が可能な限りできるよう、メニューや細かい注文は具体的に業者（特に栄養士）に伝えられるようなシステム構築を期待したい。また、検食等の評価も望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスにおいては出来ていない部分がある。水分チェック表を作成し、摂取できているかどうか毎日検討しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っているが、本人の精神面での極度な拒否等がある時は出来ないときもある。義歯の方には義歯洗浄剤の使用も併用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 基本トイレでの排泄を念頭に置き、現状でオムツやリハビリパンツの方々にもトイレ誘導を励行し、その可能性をつぶさないように努力している。 (外部評価) しぐさや表情等からタイミングを見計らってさりげなく支援している。排泄パターンを把握して支援することで、トイレでの排泄が可能となった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 投薬に頼る排泄撤廃を目差し、水分摂取や食物繊維及び日中の運動による排泄励行を目差している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 要介助の方も多く、身体状況に合わせてどうしても職員の都合でのタイミングで入りがちになっている。 (外部評価) 2日に1回は入浴できるよう支援している。午後の時間を基本として計画し、健康状態やその日の希望等によって順番を決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者が精神的ストレスに掛かってくると、やはり不眠がちになってしまいますので、日中のコミュニケーションや運動への意識を持ってケアに当たっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用確認の重大さを意識し誤薬を防ぎ、服用したあとの様子観察の大切さを意識して取り組んでいます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご家族からの情報や、日々の関わりの中での気づきを全員で共有し、様々なことを試すように努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出行事等では、ご家族の方々にも声をかけ付き添いをして頂いたり、付近を散歩したり、支援している。	
			(外部評価) できるだけ戸外に出かけられるように支援している。天気の良い日には近くを散歩したり、バスで出かけるなどして楽しんでいる。時に、家族の協力を得て一緒に出かけることもある。車いすの利用者も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) あくまでも能力に応じての支援になっているが、所持が可能な入居者にはいくらかは持って頂いている。しかしトラブルも多いのは確かなので、慎重に配慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話は掛けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 遮光カーテンや季節の花を置いたりして、刺激があるように配慮している。	
			(外部評価) 門扉から玄関に至る道筋には季節の花が植えられている。居間はソファ・テレビ・イス・テーブルなどが配置され、利用者は個々に居場所をみつけてくつろいでいる。廊下やトイレ・浴室等は手すりを設置して安全を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースで1人になれるスペースは無いが、ソファを置いたり、ユニット間を移動しての気の合う仲間との交流を支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 基本的に使い慣れたものを持ち込んで頂き、生活して頂いている。	
			(外部評価) トイレ付きの居室もある。利用開始時に家族の協力を得て、使い慣れた物や愛着のある物等を持参してもらっている。仏壇を持ってきている方は、毎日水を換えている。テレビ・タンス・イスとテーブル・人形・写真や絵・花や鉢植え等を個々に配置し、個性が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ドアに場所を示す言葉を書いたりして、本人の力が少しでも引き出せるように配慮している。それでも混乱や失敗はあるので、さりげなく正しい方向へ導くように配慮している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	有限会社 エスエイサービス
事業所名	グループホーム 恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330-1
自己評価作成日	平成33年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の立場、家族からの立場を考え、双方が納得の行く答えが出るように私たちはその橋渡しをさせて頂いております。出来る事と出来ない事はありますが、問題に直面したときには医師やご家族との話し合いを密に繰り返し、必ず何らかの方向性を見出せるように配慮しております。職員自体はまだまだ成熟していませんが、経験やプライドで行う介護ではなく、基本である目で見えて触れての気付きを優先する背伸びの無い介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の住宅街に位置し、自然が多く四季折々の風景を楽しむことができる。ホームの動線がやや多く、避難経路の確保と訓練の重要性を認識したうえで取り組んでいる。自己評価は全職員で丁寧にチェックし、話し合ってみており、職員の意識の確認にもなっている。職員の異動は比較的少なく、利用者とともに落ち着いた生活を送っている。職員は利用者の生活リズムを大切に、身体だけでなく心の情報にもより注目している。会議等で家族からの意見も出されており、ホームの運営に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 恵須栄

(ユニット名) 栄

記入者(管理者)
氏名 芝 博文

評価完了日 平成21年12月29日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員が常に見えるところに貼っているが、意識して取り組めていない部分もある。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を追加している。各ユニットでより具体的な目標を掲げ、目にふれる所に掲示して共有して実践につなげている。理念及び目標は、新規採用者への意識付けにも重要と考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 大きな行事での交流はあるが、日常的にはまだまだ交流できてはいないと感じる。地域行事にも参加する等もっと改善の余地があると思う。</p> <p>(外部評価) 近所の方とは散歩等で会えば気軽に挨拶や会話を交わすことが日常的になっている。自治会には加入していないが、地域の情報は地域在住の職員や運営推進会議のメンバーから得ている。ホームのある地区に住所がある利用者には敬老会の案内があり、参加している。また、ホームでの観月会に地域の方を招待しているが、参加はまだ少ない。</p>	今年度はインフルエンザ等の影響で外出や交流を控えたこともあり、地域行事への参加やボランティアの訪問等が少なかった。今後は機会を捉えて地域に働きかけ、地域の方がホームを気軽に訪問してくれるような取り組みをすすめ、さらに交流を深めていけるような具体的な検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 外部からの地域ボランティア等の訪問により、接点を持つようとしているが、具体的な支援方法や認知症への理解については、広くは伝わっていないと感じる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を開いており、サービス向上に向けて出きる範囲で、意見を反映させている。	
			(外部評価) 2か月に1回定期的に開催し、ホームの状況を報告したり、時々課題について意見交換している。回を重ねる毎に参加者からの意見や家族からの質問等が出されてきており、それらの意見等は職員間で共有してサービスの向上に活かしている。	地域の情報をさらに把握したり、ホームを理解してもらうためにも、会議のメンバー構成について再検討を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 現場においては、市の介護相談員との情報交換を行い、ホームとしては、疑問点や方向性について、西条市高齢介護課と、TEL、メール等で密にやりとりを行っている。	
			(外部評価) 市担当者とは電話やメールで連絡し合っている。時には市職員がホームを訪れ、利用者や職員と話し合いをしている。現在、市担当者よりホームが緊急避難場所となることについての打診がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 車椅子からのズリ落ちや離園の可能性のある方に対しても基本は職員が目で見守りを行っている。指定基準における禁止の対象となる行為について、全部は頭で覚えていないが、拘束になるのではないかという場面では常に全員で話し合い、慎重に審議を重ね取り組んでいる。	
			(外部評価) 気になる言葉かけや対応等がみられた際には勉強会で検討し、職員間の意識統一を図っている。また、繰り返し学習しながら拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉や身体両面における虐待については、常に頭に入れて接している。又、職員自身がストレスを溜めてそれが入居者へ行かないように自制心をもってケアに当たっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する知識はまだまだ認識不足ですが、ケースに該当する入居者が出た場合を想定して学んで行きたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者と現場職員及び、契約締結者が密に話し合いを重ね、お互いの話しを摺り合わせ、双方が納得するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営会や入居者個々のご家族との話し合いを、繰り返しながら、反映させる努力を行っている。	
			(外部評価) 来訪時や電話等で家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。また、運営推進会議にも家族の参加があり、意見や質問が出されている。家族だけで話せる会を持ちたいとの意見があり、開催できるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に一回職員会を行い意見や提案を聞いてくれる機会を設けてくれている。良い提案ならなるべく反映してくれるよう管理者は努力してくれていると思う。</p> <p>(外部評価) 個々にリーダーや管理者に相談しているが、定期的な面談等の機会は設けられていない。親睦会等で交流を深めている。代表者の交代から日が浅く、個々の職員との意見交換の機会はまだ持っていない。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者と直接話し合う機会はあまりないが、管理者を通して環境や、条件についての話し合いは少しずつ進められている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修には積極的に参加したいと思っているが、近頃は現場職員の確保優先で、受講件数は減少している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者の意見を聞いた上で、同業者との交流会等には参加させている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 初期段階での情報は今後の支援の方向性について重要なものなので、ご家族等の意見に耳を傾け、本人との良好な関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) じっくりと意見を聞き、御家族の気持ちの理解を示し、初期の計画を立てるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ホーム側で出来る事、出来ない事の説明をしっかりと行い、ケアマネージャーも含めて、現在本当に必要なサービスは何か密に話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者を尊重し、人間として対等な立場で接し、うまく生活に馴染めるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の意見も、プランを立案する1人の情報提供者として、積極的に関わって頂く様にお願いし、支えていく体制作りを精進している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人間がどういったところに居るのか、どういった関係でどういう風に過ごされてきたのか、まだその部分の把握は出来ていないと感じる。 (外部評価) 時に家族だけでなく友人・知人等馴染みの方の訪問や電話がある。日頃の生活の中で集めた情報を職員間で共有できるよう努めている。支援に繋がる情報の具体的な蓄積・応用方法は今後検討していく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共同生活を送る上で、他者との関係は精神的にも大きく関与してくることなので、その辺をしっかりと理解し、支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了前でも、今後の支援の内容を密に話し合い、次のサービスへのスムーズな移行の手伝いや、相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケア検討会を開き、皆で密に話し合いを行っている。職員視点での流れになりがちなので、その部分に関しては必ず本人の気持ちはどうなのかを振り返るようにしている。 (外部評価) 利用者ごとに担当職員がおり、心身の状態の変化に注目して、定期的なケア検討会で課題等を検討している。職員は、日々の生活の中で利用者の気持ちに立って支援することを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族より情報を集め、馴染みの暮らし方、本人らしさについての把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のマンネリ化については、常に現状が当たり前にならないように、振り返りを行っている。入居者の残存能力や心身状況を最新に整理する意識をこの先も持ち続けたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族、職員間で話し合いを繰り返し、現状に即した計画を作成するように努めている。</p> <p>(外部評価) 本人及び家族の意見や思い、評価等を基に担当者が素案を作成し、全職員で月2回のケース検討会で検討している。通常は6か月ごとに見直しているが、必要時には適宜見直している。ケア記録・計画・評価・本人を含む関係者の要望等、個々の記録は丁寧にされているが、一貫して把握することが難しい。</p>	<p>介護計画・個人記録・日々の介護記録・医療に関する記録・各チェック表・評価表等、個々の利用者の理解がしやすく簡便に記録できるよう、よりわかりやすい記録類の整備について検討を期待したい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 職員、管理者との縦、横つながりを大事にし、全員で情報共有しながら、計画実践を行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ニーズに対して、現場レベルで対応出来る事はいつでも追及して行っていく努力をしていくべきだが、経営面や法的な問題も含め、広い視野で考えてゆきたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人がどう思っているかは解かりかねるが、状況に応じた資源を選択し、支援ができるように努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 個々に希望される医療機関への支援の実現を意識して 取組んでいる。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関やかかりつけ医の往診を受けることがで き、ホームの看護師が中心となって医療機関との連携 を図っている。受診の際はできるだけ職員が同行して いる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護、看護と情報共有に努め、現状で最善な支援を行 うように努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 積極的に入院先の病院へ情報収集や本人の状態把握に 出向いている。キーパーソンが遠方であれば、洗濯物 を引き取りにいたり、やむを得ず家族代わりになる こともあるが、できる範囲での支援を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族への話し合いや方針の説明は出来ている。掛かり 付け医にも相談し、どういった方向性を本人に示して いくか、取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) ホームで急変して亡くなった方がおられるが、基本的 に看取りには対応していないことを利用開始時や早い 段階から本人及び家族に説明して話し合っている。食 事を経口摂取できなくなった場合には、医師や家族等 と相談し、次の支援につなげるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実践になると、やはり救命行為への初動が遅い。だが年々冷静に対処できるようになってはきているが、まだまだ満足できる状態ではない。今後も定期的な訓練は必要だと感じる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は行っているが、いざと言うときには困難な状況が想定されます。地域との協力体制も遅れを感じているので、基盤整備を進めてゆきたい。 (外部評価) 夜間想定も含めた訓練を年2回実施している。建物の避難経路がかなり複雑であり、夜間は3ユニットに2名の職員体制となるため、より効率的な対応をしていく必要があると感じている。	運営推進会議等を通じて地域への協力を依頼し、災害時の協力体制の整備について検討することを期待したい。また、ホームの訓練に地域の方にも参加してもらうなど、実際的な協力を得ていく取り組みについても期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誇りやプライドを傷付けないように、言葉は慎重に選び対応している。 (外部評価) 職員は、言葉かけや対応には十分注意し、話の内容によって適切な場所を考慮するなど、利用者一人ひとりを尊重した接し方を心がけている。来訪者の把握は、個人情報にも配慮してノート式ではなくカード形式としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定をあくまで尊重し、それに向けて限りなく近づける努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人のペースは尊重したいが、やはり職員時間での行動が優先になりがちになっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容院等の希望があれば、出向いたり、訪問してカットしていただいたり状況に応じて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出きる部分は参加して頂き、食事中はコミュニケーションを取りながら、楽しく行っている。 (外部評価) 基本的に業者から配達してもらい、主食のみ各ユニットで用意しているが、週1回はホームで調理している。利用者のタイムリーな希望等への対応は難しく、また業者がメニューや好みの要望を聞き取る機会や、改善に繋げるシステムが未整備である。嚥下困難の利用者はいないため、時間はかかるが柔らかいものやスプーン等で対応できている。利用者の役割の参加は少ない。	利用者と一緒で一連の作業をし、同じものを食べて食事がより楽しいものとなるような工夫を期待したい。また、時々きめ細かい対応が可能な限りできるよう、メニューや細かい注文は具体的に業者（特に栄養士）に伝えられるようなシステム構築を期待したい。また、検食等の評価も望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスについてはあまり考えられていないように思うが、水分チェックに関してはチェック表を作成し、チェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアや義歯の人には洗浄剤を使用したりと、口腔内の清潔確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄のパターンを把握し、定期的な声掛け誘導し自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を使用し、職員全員が状態把握ができるよう努めている。	
			(外部評価) しぐさや表情等からタイミングを見計らってさりげなく支援している。排泄パターンを把握して支援することで、トイレでの排泄が可能となった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 投薬に頼らない便秘予防を根底に意識し、あくまで自然排便が促されるように、努力している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯を決めての入浴状況になっている。	
			(外部評価) 2日に1回は入浴できるよう支援している。午後の時間を基本として計画し、健康状態やその日の希望等によって順番を決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 認知症への理解を示し、夜間眠ることが出来ないときも度々あるので、昼寝を促したり、状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師任せの感が強い、薬に関する説明文くらいはきちんと目を通し、いかなる職種であっても、勉強する気持ちを持ってゆきたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族からの情報や、本人の希望を聞きながら楽しみを持って頂き、気分転換への支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の体調と相談しながら、歩ける距離や身体に掛かる負担に配慮して、気分転換に出かける。	
			(外部評価) できるだけ戸外に出かけられるように支援している。天気の良い日には近くを散歩したり、バスで出かけるなどして楽しんでいる。時に、家族の協力を得て一緒に出かけることもある。車いすの利用者も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や本人の管理能力に応じて所持されている方もいれば、事務所等で保管させて頂いている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は、字がかきにくいと言われる利用者が多いので、電話等でご家族に声を届けて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や、ホールの飾り、窓からの景色を見て頂きながら、現在の生活観を感じて頂いている。	
			(外部評価) 門扉から玄関に至る道筋には季節の花が植えられている。居間はソファ・テレビ・イス・テーブルなどが配置され、利用者は個々に居場所をみつけてくつろいでいる。廊下やトイレ・浴室等は手すりを設置して安全を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲良い人と、ソファーに座ったり、将棋をしたり、中々共同生活において思い通りには行かない部分のほうが多いが、工夫する努力はしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家庭にて使い慣れた物を持ち込んで頂き、工夫を行っている。	
			(外部評価) トイレ付きの居室もある。利用開始時に家族の協力を得て、使い慣れた物や愛着のある物等を持参してもらっている。仏壇を持ってきている方は、毎日水を換えている。テレビ・タンス・イスとテーブル・人形・写真や絵・花や鉢植え等を個々に配置し、個性が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの付け位置や、ホールや炊事場の設置関係では決して機能的ではないと感じる。スタッフの技量を上げることが大事だが、ハード面での不適切さも多少は関係していると思われる。	